



あわし・みまし 阿波市・美馬市から 新種のクモを発見！

すずき ゆう や
鈴木佑弥（博物館学芸員）

みなさん、こんにちは。動物分野（昆虫以外の無脊椎動物）を担当している、学芸員の鈴木です。特に、クモの仲間を専門に研究を行っています。今回は、最近県内から発見された新種のクモ「バンドウヤミサラグモ」について紹介します。

徳島県には何種類のクモがいる？

みなさんは徳島県内に何種類のクモがいるかご存じでしょうか？県内では、阿波市在住のクモ研究家 坂東治男さんの長年の研究により、2023 年時点で 470 種のクモが知られていました。その後、私と坂東さんが 2024 年に行った共同研究によって、45 種が追加され、合計 515 種になりました。さらに、2025 年の調査によって、合計 530 種に達する見込みです。日本国内から知られているクモの種数がおおよそ 1700 種であるため、県内にはその約 3 割の種のクモが生息しているといえます。

なぜ、県内のクモの種数は年々増え続けているのでしょうか？これには主に 3 つの要因があります。第一に、すでに名前がついている種（既知種）でも、専門的な分析がなければ種名の判別が難しいもの（不明種）が多いためです。坂東さんが県内各地から集めたクモの標本のうち、そのような不明種を鈴木が精査することで、新たに多くの種がいることが判明しました。第

二に、過去にあまり調査が進んでいなかった湿地環境で精力的な調査を行ったことで、これまで見過ごされていた、湿地に特有な種が多く見つかったためです。そして第三に、まだ名前がついていない種（分類学的には未記載種とよびます）が、新種として記載されたためです。今回紹介する「バンドウヤミサラグモ」は、この 3 つ目に該当します。

新種のクモ「バンドウヤミサラグモ」

坂東さんとの共同調査により阿波市と美馬市脇町から新種のクモを発見し、「バンドウヤミサラグモ」（図 1）と命名しました。徳島県から新種のクモが見つかるのは 9 年ぶりで、名前に「バンドウ」がつくクモは 3 種目になります。

ヤミサラグモの仲間は、体長 2～3 mm ほどの小さな黒色のクモで、主に沢沿いの湿った場所を好みます。ふだんは、石の隙間にシートのような目の細かい網を張っています。徳島県からはこれまでに 3 種類のヤミサラグモが知られており、主に吉野川の北側から香川県にかけてアキヤミサラグモが、徳島市や神山町、阿南市などにトクシマヤミサラグモが、そして三好市にアワヤミサラグモが分布しています（図 2）。



図 1 バンドウヤミサラグモ（左：メス、右：オス）

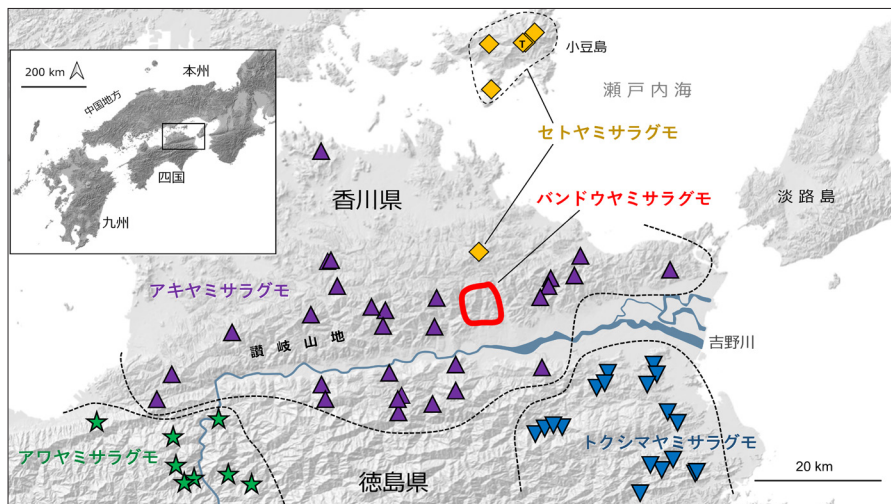


図2 徳島県北部におけるヤミサラグモの分布。赤く囲んだ所の内側にバンドウヤミサラグモが生息している。(国土地理院の地図を使用、Suzuki 2025 の図を改変)

2024年8月に、坂東さんの案内のもと、阿波市の伊沢谷川^{いさわだにがわ}でクモの調査を行いました。その際に採集されたヤミサラグモを研究室に持ち帰って顕微鏡で観察したところ、クモの種類を識別するうえで重要な交尾器^{こうびき}の形が、アキヤミサラグモはおろか他のあらゆるヤミサラグモとも明らかに異なっていました。そこで、阿波市を中心に県内およそ100か所で調査を行った結果、このクモは阿波市と美馬市脇町の約6×8kmの範囲にのみ分布していることが分かりました(図2の赤く囲んだ所の内側)。その後、形態や遺伝子^{けいたい いでんし}を詳しく調べたうえで、2025年10月30日に論文を発表しました。

新種といえば、アマゾンの奥地のような、人があまり足を踏み入れないような場所で見つかるもの、というイメージをお持ちの方もいるかもしれませんが、しかし、今回の発見のように、虫の世界では、ごく身近な場所からも新種が見つかります。次に新種のクモが見つかるのは、あなたのご近所かもしれません。

なお、バンドウヤミサラグモに関する展示を博物館2階常設展示室「徳島の自然と暮らし」で行っており、標本は令和8年2月1日まで展示されます。ぜひお越しください！

友の会で学ぶ徳島の自然

なかおか かなこ
中岡加奈子(友の会会員)

友の会に入会し、2年目になります。もともと、外遊びが大好きな子どもを連れて、よく文化の森総合公園に遊びに行っていました。そんなある日、遊び帰りにふらっと立ち寄った県立博物館で、友の会のチラシを見つけたのをきっかけに入会しました。

入会を決めた大きな理由は、令和6年7月の友の会のイベントに「夜の昆虫観察」があったからです。虫が大好きで、好奇心旺盛な子どもに、是非ともこの経験をさせてあげたいと思ったのです。博物館の学芸員さんが一緒に、かつ憧れのライトトラップも経験できる！また、他にも魅力的な企画がたくさんありました。

実際に参加してみると、「夜の文化の森たんけん」ではカブトムシ、クワガタ、セミの羽化、ナナフシなどたくさんの昆虫に出会えました。ライトトラップは、個人ではできない大きさで迫力満点！子どもはワクワクしながら学芸員さんたちに質問し、たくさんの学びがありました。「百聞は一見にしかず」という言葉があるように、実際にクヌギにとまっているカブトムシを触ったり、セミの羽化を見守ったり、忘れるこ

とのできない思い出になりました。せっかく自然豊かな徳島で暮らしているわけだし、自然との触れ合いを生活の一部にしたいものです。

「たのしい！おさかなかんさつ」では、川に入り、生き物を網ですくって観察しました。時期によっては少し冷たく感じる川の水ですが、採集に夢中になり、忘れてしまうほどでした。最後は、参加者が採集した魚の特徴や説明を学芸員さんがしてくれました。先日、水族館にいくと、観察会で採集した「オイカワ」や「シマドジョウ」が泳いでおり、子どもたちがきちんと種名で呼んでいたのには驚きました！

我が家の参加は、基本的に自然系の行事が中心ですが、友の会はたくさんの企画があり、誰でも楽しめる内容になっていると思います。スタッフの方も親切で、参加が楽しみです。今後も、友の会を通じ、家族で様々な体験学習をしていきたいです。



ライトトラップに集まった虫を
外村学芸員に見せる子どもたち



魚を見せようと井藤学芸員に駆けよる子どもたち

友の会で出会ったカブトムシ

たむらゆうき
田村祐記（友の会会員）

普段から子どもたちを連れて文化の森の図書館へ足を運ぶ中で、友の会の会員募集のチラシが目に残りました。子どもたちと一緒に自然に触れたり、過去の歴史に向き合えたりする体験を通じて学べる機会ができるのでは、という思いから友の会に入会しました。

これまでに「化石をさがそう」や「たのしい！おさかなかんさつ」に参加しましたが、中でも夏の「夜の文化の森たんけん」で、カブトムシに出会えたのは我が家の大きな出来事です。そこで捕まえたカブトムシを家で飼育しました。子どもたちにとっては初めて生き物を飼育することになり、名前をつけて観察や餌やりをして、かわいがっていました。カブトムシは残念ながらなくなってしまい、子どもたちも悲しんでいましたが、その後は、カブトムシの絵を描いたり、思い出話をしたりして、懐かしんでいます。振り返ると、今年はカブトムシの年だったなと思うほどです。こういった、自然や生き物に触れる体験を親子でできて、本当によかったです。



飼育していたカブトムシ

友の会行事報告

たのしい！おさかなかんさつ

- 日 時 令和7年6月7日（土）
10:00~12:00
- 場 所 そのせがわ 園瀬川（文化の森前）
- 日 程 10:00 園瀬橋下に集合・受付
10:25 園瀬川で活動
12:00 集合場所で解散
- 担 当 こうさかとしゆき 幸坂敏行（友の会役員）
いとうたい き 井藤大樹（博物館学芸員）
まるやまなお き 丸山直生（友の会事務局）
- 参加者 16名

注意事項や網の使い方などの説明後、川に入り、井藤学芸員が採り方の手本を見せてくれました。教わった方法でやってみると、何度か挑戦するうちに魚をすくうことができ、参加者の大喜ぶ姿が見られました。最後に全員で集まり、採集した魚の名前を教えてもらいました。そして、魚を川に戻してやりました。なかには魚を持ち帰り、飼育に挑戦する方もいました。自然や生き物について深く知ることができる貴重な体験でした。（丸山直生）

Voic^e 参加者の声

●さかもと いつき さん

そのせがわで くらしているさかなを あみでつかまえました。ハゼのなまえを こげちゃんにしました。きょうは すぽいとで こげちゃんに えさをあげました。

●さわのせいじ 沢野誠司さん

小学6年生の息子と参加しました。川魚観察への参加は2020年の穴吹川以来になります。説明を受けて、いざ川に入ってみてもなかなか魚を見つけられません。でもよく目を



そのせがわ
園瀬川のヌマチチブ

凝らしてみると川底をはって泳ぐ魚を発見。息子と2人で追い込みながらようやく捕まえることができたのは、ヌマチチブ。そこからは同要領で数匹捕まえることができました。

いただいた資料では他にも様々な魚種がいるようなので、機会があれば、捕まえて観察してみたいと思います。

●たなかせつこ 田中節子さん

園瀬川は思っていたより水深があり、魚の種類も多かったです。分かりやすい解説と見やすい資料をありがとうございました。行事後も使用したいと思います。虫や植物と同じ名前の魚がいておどろきました。子供から大人まで楽しめました。



園瀬川で魚を探す参加者



集合写真

友の会行事報告

夜の文化の森たんけん

- 日 時 令和7年7月26日(日)
19:00~21:00
- 場 所 文化の森総合公園
- 日 程 19:00 噴水前広場に集合・受付
19:10 公園内で活動
21:00 集合場所で解散
- 担 当 ゆきなりまさあき 行成正昭(友の会役員)
とむらしゅんすけ 外村俊輔(博物館学芸員)
すずき ゆうや 鈴木佑弥(博物館学芸員)
まるやま なおき 丸山直生(友の会事務局)
- 参加者 24名

外村・鈴木両学芸員から野外観察時の注意事項を聞いた後、セミの羽化やカマキリの脱皮を観察しました。羽化に失敗したセミもあり、自然の厳しさと命のはかなさを実感しました。また、小枝で巣を刺激すると威嚇するコガネグモは、コミカルなダンスを踊っているようで、観察の場に笑みがこぼれました。さらに、体長10センチを超える巨大なヤマナメクジの出現は、参加者を一気に非日常の世界へ引き込みました。

その後、クヌギ林でカブトムシやクワガタを採集しました。耳をすませば、樹液のにおいに誘われて飛んでくる羽音が聞こえました。また、



文化の森で見つけたカブトムシ

ライトトラップの帰り道でクツワムシにも出会いました。図鑑やインターネットでは得られない、五感を通して自然とふれあう体験ができ、楽しい思い出として心と体に深く刻まれる、かけがえのない時間となりました。(丸山直生)

Vo!c^e 参加者の声●さわの まりこ 沢野真理子さん

今回、「夜の文化の森たんけん」に親子で参加しました。子供は2回目、私(母)は初めての参加です。セミの鳴き声がうるさい昼の森とは違い夜の森は静かで、その中で見たセミの羽化はとても神秘的で感動しました。一方で羽化が途中で止まってしまった個体も見ることができました。命の尊さ、自然の厳しさを感じた瞬間でした。子どもはカブトムシ、クワガタ探しに大興奮。忘れられない体験になったようです。今から「来年も絶対に参加する!」と張り切っています。

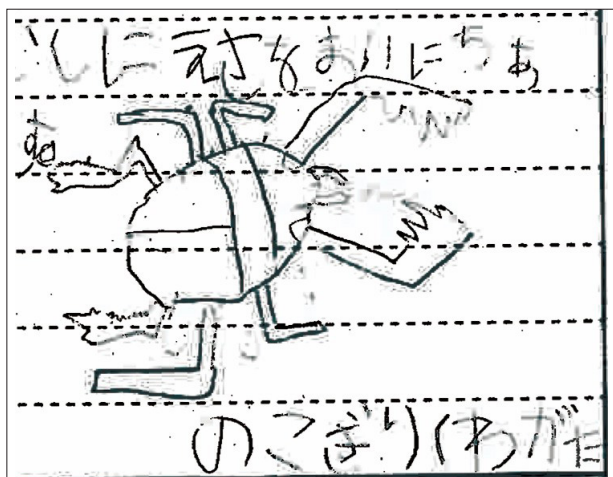
●くま おみちこ 熊尾道子さん

友の会行事に初めて参加しました。夜の昆虫は昼間に見られない姿を観察でき勉強になりました。また、セミの羽化を初めて見ることができ感動しました。生死を目の当たりにし、今まで苦手だった虫にもやさしく接することも学びました。

スタッフの方々の説明も分かりやすく、どんな質問にもすぐ答えてくださり感心しました。準備も大変だったと思います。その甲斐もあり大成功で終わりました。持ち帰ったカブトムシとクワガタは、大切に育てています。ぜひまた参加したいです。

●さかもといつきさん

カブトムシとノコギリクワガタをくれてありがとうございました。めずらしいものをくれてありがとうございます。カブトムシにえさをまいにちあげています。



ノコギリクワガタ (さかもといつきさん 画)



木の幹をライトで照らし、セミの幼虫を探す様子



集合写真

友の会行事報告

漂着物をさがそう

- 日 時 令和7年9月28日(土)
10:00~12:00
- 場 所 みなみちよう たい の はま
美波町 田井ノ浜
- 日 程 10:00 事前説明
10:20 漂着物さがし
11:30 品評会
12:00 終了
- 担 当 ほん だ そういち 本田壮一 (友の会役員)
はま なおひろ 濱 直大 (とくしま海の観察会
会長・友の会会員)
いばらぎ やすし 茨木 靖 (博物館学芸員)
まるやまなお き 丸山直生 (友の会事務局)

○参加者 8名

はじめに、県内外でビーチコーミング(海浜での漂着物さがし)をしてきた濱さんから、ビーチコーミングの魅力についてお話があり、コレクションの一部を見せていただきました。その後、ビーチで漂着物をさがしました。色とりどりの貝殻、外国の浮き、ビーチグラス…。限られた時間でしたが、県南の美しい砂浜で漂着物さがしに夢中でした。

最後に、参加者が拾った「宝物」を並べて、濱さんと茨木学芸員から解説がありました。南の島からやってきた植物がこの砂浜で根を張っていることや、お金として使用されていた貝のお話などを興味深く伺いました。

(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●ほん だ そういち 本田壮一さん

わかりやすい解説や標本を見せていただき、ありがとうございました。

約1時間のビーチコーミングで、タカラガイ

(3cm 大の新鮮な貝殻) やバフンウニ、二枚貝、巻貝を採取できました。手紙の入ったメッセージボトルも探しましたが、残念ながら見つけれませんでした。

田井ノ浜の近くの生まれなので、童心に戻る時間でした。4 年前にもこの行事に参加したことを思い出し、^{なぎさ}渚を歩く楽しみを再確認しました。

●^{た なかせつ こ}田中節子さん

2024 年春の企画展「海からどんぶらこ」を見て、「漂着物さがし」に興味を持ちました。

田井ノ浜では、茨木学芸員による砂浜の植物の解説がありました。海岸植物のハマゴウやツルボが咲いていました。とくしま海の観察会会長の濱さんによるビーチコーミングの解説は、とてもわかりやすかったです。参加者は自分のペースで、集中して漂着物をさがし、拾うことができていました。この行事には初めての参加でしたが、一緒に歩きながら、アドバイスや解説をいただけたので、助かりました。同じ海岸を歩いたのに、人によって収集品に違いがあり、楽しかったです。

●^{なかむら まさる}中村 勝さん

温暖な気候のもと、駐車場から浜辺をゆっくり

りと歩きながら目的地の田井ノ浜に着きました。

最初に濱さんがビーチコーミングについて話してくださいました。渡り鳥が途中で力尽きたのか、鳥の骨の一部が見つかった話や、遠くの島から流れ着いた植物の種が育った話など、さまざまな話を興味深く聞きました。また、外国語で書かれた釣りの浮きなども流れ着いており、ごみ問題や環境汚染についても考える機会となりました。

この行事に参加したのは初めてでしたが、海風に心地よく吹かれながら浜辺をゆっくりと歩いている漂着物探しは、気分転換にもなり、楽しい時間でした。

●^{なかむら ゆ か}中村由香さん

「漂着物をさがそう」は、息子が小学生の時に参加して以来で、その時には息子が^{るり}瑠璃貝を見つけて、とても喜んでいたので思い出です。

今回は 13 年ぶりに、夫と参加しました。私は、小さな貝殻や水色やみどり色のシーグラスをたくさん集めました。自宅に帰ってからはきれいに洗って乾かし、透明のカップに入れて部屋に飾っています。光があたるとキラキラと光を反射するので、とてもきれいです。

行事の最後には、参加者たちが集めた漂着物



ビーチコーミングについて説明する濱さん



漂着物を採集する様子



色とりどりの漂着物

を並べて品評会がありました。自分では見つけることができなかったものがたくさんあり、新しい発見がありました。とても有意義な時間になりました。

いしまるあいり
●石丸愛理さん

初めて田井ノ浜でビーチコーミングをしました。前日には、モダマ^{ふく}が採れたという噂も…。期待に胸を膨らませ、夢中で砂浜を探しました。残念ながらモダマは見つけれませんでした。田井ノ浜では珍しい、ベニガイという綺麗な桃色の貝を拾うことができました！

他の参加者の方々も、植物の種子や貝をたくさん拾われており、行事のまとめの品評会も充実していました。また、茨木学芸員からグンバイヒルガオについても教わることができました。グンバイヒルガオは南の植物で、種子が海流によって運ばれてくるのですが、寒い地域ではたとえ発芽しても冬を越せずに枯死してしまうそうです。ところが、海陽町の海岸では冬を越して繁殖できているとのことでした。興味深いお話をありがとうございました。ぜひまた田

井ノ浜でビーチコーミングを楽しみたいです。

※マメ科の植物。その種子は、南の島から海流で運ばれる希少性から、出会いをもたらす「幸福の豆」と呼ばれる。



田井ノ浜で見つかったベニガイ



グンバイヒルガオ



集合写真

アワーミュージアム 第77号

2026年1月31日発行 : 徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内

TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197 E-mail: mus-tomo@bunmori.tokushima.jp